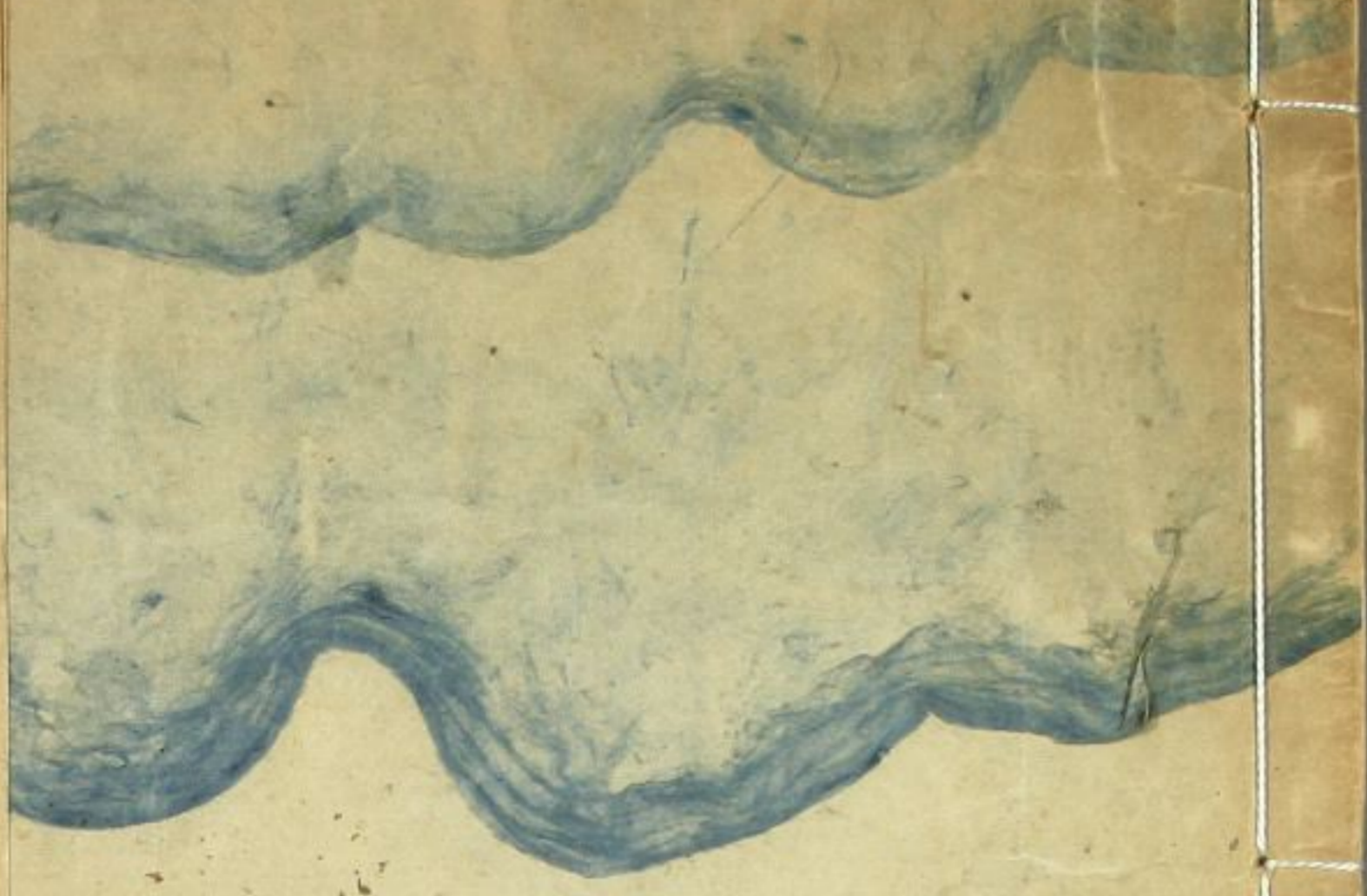
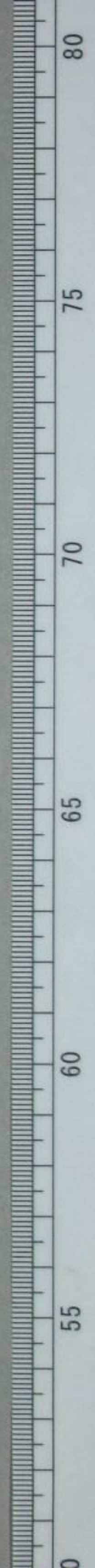


十種香暗部山  
完



79  
683



門 柳  
第 683  
卷

式 炷 煙 中 得 臺

女 瀦 塵 寰 胸 閑

十 種 香 噯 神 山

晴 部 山 叙

定 瀟 乎 大 覺 之 門 也 暇 於 畦 畝 是 於 蕙 菲  
息 泫 於 樹 下 於 石 一 成 音 畔 心 超 邈 冥 衆  
不 以 監 淑 地 看 所 禱 善 提 涅 槃 者 在 夏  
之 介 瀛 未 肯 以 曠 深 况 先 坐 滅 去 來 了  
於 介 道 於 區 者 亦 而 多 於 介 道 於 絕  
和 之 矣 閑 寂 意 無 力 甘 暇 未 肯  
以 復 焉 識 之 也 軌 達 時 有 矣



心身皆散在則從光欲并身履  
光次水香發於鼻中冰來冰室冰  
有烟狀的無傳是為他焉得非書畫  
親書之以致焉宋宣并道人南之宗  
慕東林業之白律身而不散戒  
緇得宗善勵居綠女為羊而逸趣  
深闊敘夕信之如ヤ穎雅而嗜和氣  
清振善出西苗之長方于清風衣

穢穢委才結倚內林探雲問月小林  
似一棚妙柳樓榮淡露都去身以  
著東去以況賞樂漢如經稱之似  
遂接名圃色方以口使子要十條  
累月時看山香散女貝之玄深以  
原取畫蒙上如部興競國別相  
時聚以品鴻舞身之渴也後奈否罰  
千首乃後以末果一月增華乃及或人

目為道人視天地如撲籛死如大為  
醉極去弱華後孰葆而吳挽腕  
吹而不契字折斜唯日癡人面前  
不升一洗多公大樂是為序

者

享傳來次梅蒙大意流以者月

上漸

东林處

劔書而物山人友

書



乃とやられる夕つゝいゝいゝ口成右い  
まゝゝ夕載志花字折とつゝいゝ本  
るゝあな少とどめゝゝ折とつゝ洛下  
の徳由法ゝ晴動山と号けきりゝ  
帖と携来ゝゝをみ庵の僧画南  
ニ云人多ゝ草彦小籙居ゝゝ適来  
人と入むとあゝゝりゝ来乃彦此下  
頼も志ふ川ゝ開ゝゝ此何ゝゝ

東海道 徳島 徳島藩 徳島藩 徳島藩

物乃年ぬやうしはなして志成表  
し信よつふほの娘よ八香や茶とに寸  
さひ中し新く考の乃の思娘ん文記  
し侍る物やはらうといは後し汝道成  
したへ交しこみえんと侍宗教ぬく  
みほり光あるまこく果のちるを  
歎の海と習をぬ津に侍り如謙也  
秀八清をる哲の妹とれまろりこらる

以神佛此意よもかかふるきこし  
伏乞し志むるぬくむと侍出り  
称し多れをる者し今ならん事し  
も書あへり予に席せよも是年人し  
とてよてみ乃るをるし  
因辞よのし是非しすめららるし  
笑ひし九中あつこの侍をするし  
その侍しけ物侍ては業にこえんし

世の人志英とてしむるありき  
為

龍吟後驥

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

凡例

一 考として所々しし  
く多程の事としし  
以家として十程あり  
矣叔君は花風源氏  
也又十程あり

一 十程の節より  
炬燒合十程あり  
郭云多合  
忍考曰町  
宗治考  
名月  
名所  
三夕  
位





一 考の作は八十一の十種より大撰と云る一十種以下  
の考より畧せしむるなりとて之を考と云ふはさ  
て故実のれを可くしあつた事よ中より其を考  
の根柢と云ふ意味ありてははかばかしく死に送り  
心より人の常にあつた事なる

一 香舎具の考序宿主の用意法をのこしりし  
寸法不白の考本はともかくも法被茶湯等  
可くは古法新視す又指あるべし香房と好む人  
道と云ふ辭をあそくは有るべし  
今世の考合の法はみたりを  
熟をうすく其の故と云ふ

一 考道具の類人形の花と云ふ前麻原氏考の等  
八十種の要具あるは後附子<sup>コト</sup>を考して初公のたよ  
りとして是も又畧し之をのこす  
一 考道より古法の割ありと云ふ一め初公の考より  
之を考し入るは越と云ふ  
一 考道より古法の割ありと云ふ一め初公の考より  
之を考し入るは越と云ふ  
一 香一紙おぼしめしり餘のものをいいたしと  
一 三息の息の印永軍一又考道と云ふ一きり并  
入たる符と云ふなり  
一 他人と云ふやまおぼしめしり符入紙す

- 一 香一從おしりうり小洞茶葉并菓子なと合はする
- 一 香のまふたてあり用るものめり
- 一 戸障子のきき明を供託をいはまこと志のりな  
らるる事

右之条く學おき一なるるまことなり

此の常は月之末のこあまの有りくと列記  
供りて暑し平ぬ

十炷香 第一

- 一 香の種一二の香試あり一客香試あり
- 一 香の種一二の香試あり一客香試あり

つと一切つち香小はむ二色二色合九色此客一  
つと入十色なり是を印色二色入と

- 一 香の種一二の香試あり一客香試あり

試て炷むと二の試法并小同ま一ありハ印香と  
十色とうち中集何きまでとりて一色つと法あり  
炷むと次は符符とハ出ま

- 一 圓極試ありい合て一ノ香とありハ一符二とたを

二符とと取り入し之符法もつり香少くハ客此符を  
入し此符とと取り入し之符法もつり香少くハ客此符を

十炷法をいふがめし折居の書符を改ては

一 十種ありて記録しかく付え一の折居とあけ算め故  
と見てある書三白葉一なるよみて志ろうする色し  
かくのあり下より十の折居までを記し終り  
後学よこし一書つら中考色とて一なる上段と  
一返一多考色とて一なる一限一下の亦  
とてしき中考二一書なるよこし一なる一限一  
記録あり也

一 点のは右中考し中よりたへ横へん合しつらなら  
一 点かへは右の考一在一人交りしは二点二人以下  
二点二考のひとし  
点の法ありいよしけりてある  
しきりてある  
しきりてある

一 初より若きまうたりて初若しと云祿舞まへし終りまで  
ありてしあるとて折居もえて礼あり小次祿舞え  
一 記録のむき折居も小十は考し記式は二ハツたの記又  
九思一言の記ありし書案二序の初は二ハツたの記又  
一 記しはき二序より十種考又二考よりしおるし三を  
一 花も九思二云ともありてかうて可あらんう付置り  
しるるし歌号の巾に二二考と書て考の路線  
かく事有御侍之晴めの初より考れ中記かく  
ことれし一終り後しあるし一と  
又中記中記  
録しあるし

五序はかまはしとありし記録の半  
寸は折居ありしとある

十炷 香記 録之 圖

|      | 白  | 白   | 白   | 白   | 白   | 白   | 白   | 白   |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|      | 楠  | 桐   | 栴   | 檀   | 香   | 香   | 香   | 香   |
| 初春十日 | 11 | 21  | 31  | 41  | 51  | 61  | 71  | 81  |
| 何亭   | 91 | 101 | 111 | 121 | 131 | 141 | 151 | 161 |

一 符の夜と...  
 一 下小圃あり...  
 一 六八を...  
 一 初より...  
 一 毎の...  
 一 毎の...  
 一 毎の...

八十開小ありて又具して空年 各々ごとくしてやま事ハ括

多切者のさしこ不埒の人ハむむうも開きんハ

を具たし何れもこれハ

一開敷の多少決りしを以て切ふ切減けはまらじとなり

りしを以てりしぬ誤あたぬ中りしを理り

も殊の人より小評論をうらひ餘の考

も皆これと同

一記録紙のしと執筆のまじき故より小志を以て

及て紙下卦ありて署の時ハ卦のりぬ

月教のりぬ但此等らゆめハ

一記録の終りて年月日をかきし亭名或ハ主の

各条ともかく但此等らゆめハ

右の作は十短一通り小よりてなるハ餘ハ考との

取のしハ記録のしや急のけ振別ハ小ぢり

らしハ記し

宇治山考 第二

一考文種三三四六の小と試あり符とちひし各条

ことこしりし

一考従右五種の考二切つ出一切つめ色ハ試色



のけて上ノ各宗トノ間考又上ノ間あり名ありとて後小出考の  
 包で記し上郡のつりて我庵なるしふみせし僧也  
 の次一りのゆゑる所んぢうなめまよ見合て急成て  
 是事常のゆゑ

一 念は一人まうしふあ忠能ハ一点一人まの二在一人を

一 即秀又種の内一様を一様は内あり煙らした一在ノ間ありぬま

運元沙おのすうちあまを沙江種の内今一様而包

して後ノ煙出一まことあり時何ふる人一な

記録も初よりん有智一け時各宗感と湯とたも

とがきこまに

鬼道山考の記

よ成ら山と

名宗

人いふあり

日

こりの河は

日

ま古の聖

日

世成ら山と

日

志りそむむ

日

都のたのこ

月日

亭名

小島考 第二

- 一 考六種試を——符不用各系小島
- 一 考從三三回又けみ種試二切つか——たよ五種右よ五種二  
通十色し破ふ——ふ——て印包よ入金
- 一 始とき考中在申へ——根がと印包で開き馬よけ  
重しり小色三三回又けみたりのうち何まふて——のよくやせ
- 一 色ねく右入右の内一色ぬきたりへ入たりへ——後一方  
のふ色試陳さる、沙ぼふ色で能く——也ていりきめ色も  
ぬきとみ色たよ、たのふ色試ぬき考かき——
- 一 開振たみ色の内一色た右入た入た、たのふ色試同考らるる故多

- 一 考二二考ふと二考よちつりと同考あは、たのふ色試のころ言  
ふ別め考こあよとちと——尾下二と回考とやまき各  
系考よま計り或ハ三三回又とせまハ二考め二考め同考  
ま——故よほと。ま、尾下二と回考と出らると考ま又又  
たきたよ別くの考とまこく時ハよふと——しめ共十二の  
考の考よよせてせし、たのふ色試餘、下よ考准て知——  
ハ三三回又けみたりのうち何まふて——のよくやせ  
考かき——  
一 運元すまう——めたる時月安て又合て各系考よ小島の  
名で三三回又けみたりのうち何まふて——しめ共十二の  
小考の——。





小草・考 第四

一 考或ハ二種或ハ三種ノモトニ種ノモトニある教定ヤウニ成スル

ノ事草の若のオハハメ小よハ試あり各宗ノ考ニ用ヒテ

一 香紙兼此名ノヨリノ故時ノハナリト下ノ事知ル

一 草の定ハ種假名文字ノ事一考ノ種トスル也たし

ハハメヤメ。スズル是ハ考ニ種アスル。友て是ハ考ニ種ハチスル

○おもなへ是ハ考ニ種 狩ルヤシ此草ノ事ハナリトモ有ク折

小ニ定付ハ文章ハナリトモハナリトモハナリトモハナリトモハナリトモ

ト入考ハ二種ナリトモ二の考ト定メトモヤの考同定

の考ト定むル事ニツクハ同考ニ色ハ別メ考ト知ル

ヤウ草の名をヤウヤウト定めてハ種考トスル時ニ

同ト同考ト定メト同考ハ別考ナリ是ハ考ニ種アハヤメ

○ヤウヤウトスル時ハ同考アル事ト試是ハ考ニ種ハ

ト試トテその事ニツクハナリトモヤウヤウト定めてハ種考トスル時ニ

ハハメヤメ。スズル是ハ考ニ種アスル。友て是ハ考ニ種ハチスル

ヤウヤウトスル時ハ同考アル事ト試是ハ考ニ種ハ

ト試トテその事ニツクハナリトモヤウヤウト定めてハ種考トスル時ニ

ハハメヤメ。スズル是ハ考ニ種アスル。友て是ハ考ニ種ハチスル

一 考紙兼此名ノヨリノ故時ノハナリト下ノ事知ル

ハハメヤメ。スズル是ハ考ニ種アスル。友て是ハ考ニ種ハチスル

○ヤウヤウトスル時ハ同考アル事ト試是ハ考ニ種ハ

ト試トテその事ニツクハナリトモヤウヤウト定めてハ種考トスル時ニ

ハハメヤメ。スズル是ハ考ニ種アスル。友て是ハ考ニ種ハチスル

一 旌板をめぐりて試みたり終り申考能くせ二種つ旌  
 出申連流うて終り試み申ひ合て初二種別の考後  
 二種同考と思へるも又うやまきこ也初ハ同考つき  
 後二種がういハきうや又まきこ也  
是ハ二種の考  
 次第おいてたり

小草

香記

録之

圖

|    |    |   |   |   |   |
|----|----|---|---|---|---|
| 口  | 口  | 口 | 口 | 口 | 口 |
| 名宗 | ニヤ | キ | キ | キ | キ |
| ニヤ | キ  | キ | キ | キ | キ |
| キ  | キ  | キ | キ | キ | キ |
| キ  | キ  | キ | キ | キ | キ |
| キ  | キ  | キ | キ | キ | キ |

小草考之記

ヤキキ

名宗 ニヤキキ

口 キキ

口 キキ

口 キキ

口 キキ

記録小考

香小同

忘は考後

見く知

小具あり

|   |   |   |
|---|---|---|
| 日 | 月 | 日 |
| 丸 | 目 | 形 |
| 丸 | 目 | 形 |
| 丸 | 目 | 形 |
| 丸 | 目 | 形 |
| 丸 | 目 | 形 |

競馬考 才五

一 考中種一二三客名試あり旌二面人形あり方ニツる部是  
 諸員本を中十種考札を用一様なり此の考下下三至  
 べて知る

一 考中種大に四切つ出して一切つ試の色小入しあり

一切ハ中秀色小切入試四色中秀十二色合十六色 是と和色小入おく

一 運気指人の時ハ赤方黒方左右小分て六人ハ八人有時  
ハ五人ハ分赤方黒方ハ陰布キ人あり

一 炬振中印色試三種ニ炬出 終ハ中秀  
包ニ能中せいりも二包ヲ深め 拾包多き出

一 剛振前後てをかりて 但け秀ハおも二種ニ炬出  
る中秀と云十種秀の 符入一 秀一

一 初ノ體のたの澤ノ赤をを入小人形 試以元右  
右の溝ノ黒方入 小人形立 中前同

一 試終印 中秀一炬出時 一種の 秀元 中秀

包と一 試終中 秀元 中秀

初の 試終中 秀元 中秀

體の 目合 中秀元 中秀

體目 中秀元 中秀

中秀元 中秀

中秀元 中秀

中秀元 中秀

一 揚負来 運気八 十人の時中 月六 人下 八

十八 月下 八人 初ハ 赤方元 中秀元 中秀

中秀元 中秀

中秀元 中秀

中秀元 中秀

形り同しきふをれ、持と之、總二枚のり半、いすお  
不し、か、つ、れ、又、甲、し、あ、し、り、れ、さ、た、ら、で、な、て、こ、り、法、中  
下、使、し、き、為、ち、り、總、二、枚、一、  
ら、た、ら、も、有、

一 總の二枚、人又、紙、中、より、赤、方、何、り、黒、方、何、り、方、こ、こ、と  
し、り、る、を、き、い、し、を、考、な、れ、紙、中、人、を、利、不、總、は  
上、と、し、か、い、し、可、か、い、

一 記録書、初、一、歌、号、次、一、引、除、て、四、考、の、赤、方、非、次、と  
し、れ、の、紋、名、系、常、の、一、黒、方、も、是、小、唯、知、一、

一 煙、開、さ、る、も、こ、一、板、く、よ、土、考、と、い、ひ、出、考、の、不、小、法、と  
書、付、板、背、と、筒、を、し、出、し、印、考、を、見、合、て、中、こ、も、り、成、

こ、紋、小、合、せ、下、に、三、三、り、付、と、し、て、あ、い、し、ぬ、白、圓、り、  
し、て、イ、ロ、シ、タ中、の、板、で、を、り、を、板、何、方、合、何、程、有、と  
つ、と、又、何、方、の、種、の、務、も、持、を、を、り、を、を、り、と、し、  
を、双、方、は、指、負、ハ、總、の、一、不、し、り、し、も、總、は、甲、乙  
ハ、記、録、の、面、し、こ、ち、あ、る、事、一、

一 總、人、形、を、指、負、來、等、ハ、後、附、小、圓、と、出、し、見、て、知、一、

競馬  
香記  
祿之  
圖

|        |           |
|--------|-----------|
| 競馬香記   | 二ウ二二三二二ウ三 |
| 赤方 三枚掛 | ウ一 三二一ウ三  |
| 狐松     | ウ一 三二一ウ三  |
| 籬栢     | 二ウ一 一三ウ三七 |
| 白菴     | 二一 一三 三四  |
| 黒方     |           |
| 乙井     | ウ一ニ ウ三五   |
| 玉椿     | 二ウ二 三二一ウ  |
| 忘行     | 二ウ 三 三    |
| 月日     |           |
| 亭      |           |

出香二枚  
ウ二枚一三枚  
三三枚  
十二包の内  
ウ一三二枚六  
少ると云々

矢数考 第六

- 一 香心種一二三客のきも試あり競る香のきも一様心  
りきあり十枚考のれと用徳一面矢十斤他二人小用金毫
- 一 浪塵十箱入おく
- 一 香心競る香のきも
- 一 煙板考本試心種出し終るハ印考十二包能くま  
せう〜次考に始出中半常めめ〜  
は考ハ十二包の内考  
を考くとも知をなり
- 一 用板試合て札乃半考の〜  
は考ハ札十二枚  
とも不用中
- 一 初〜徳の〜心考〜人救回と筆をたて主筆の心

競るの〜二色海小  
あ〜〜〜知なる



名詞] 香 第七

一 香字種三三試あり 審試なり 十炮香小同 但こ  
一 炮初の地の沿りのこの十種の札で用種一面橋投きなり  
こら枝なり人数小三つこの一人より五つ用

一 香種十炮香小かりしや

一 炮種試し香しきもに十炮香に同して一種の地を

一 連気十人或は八人或は六人重小定り半競る花月めぬ

一 初より方地方訪回方と定めむつひ合てやむ切者切者  
かこよよと申すましくこり 並る

一 開振十炮小かりしに種の人初小芳地方ハ種の人

せうく人救やし橋をさく 限下小芳地方の人のかと一振

まへ 紋の札で用てと 竜田方たたられとも小芳野方小

同し一振試之種終て後即香一炮さくれと一炮ひらきおれ

その香記ありとも次小筒よりれとぞ 紋小合せの香紙

かんが申したる人の巻よてもとらよてもとら二回つ

すまきとや 一方ありさる方ありさる事右のこ

一 取付種さつてありさる方の時より双方は須臾でもわら

縁の中のなかが目めら分捕端の小籠の籠りこころいさ

大槍すあつても分捕端紙向打紙おひの端へをよても

とこらふても拾ふとに従ふとて双方の種つの中り友



まじし双方も少く捕場も立あゝふ又曰程は少く少く  
めふおの一方あたゝゝの付はたよてもとらふも  
ぬきて誓の恨み外へおゝ扱ふまて考りてまじし漸  
む捕場も少くけはすあつゝふまてついでてまじし  
半一考のまじし又一方お始りてゝおの二考も  
あてられゝ人めをふてもとらおてもぬきて誓の  
賜も授け之とゝまてあゝる付漸一方まじし曰程すは持也  
を捕あはれおれまじし名目皆保平考も  
まじし考もまじし考も

一 仁徳書作圖のまじし 大脚競も考のまじし  
まじし 考方で初とゝ 新田方以後とて競も考のまじし

若中方向何程竜田方何程と考のまじし 何方何程と考とゝ  
曰程あまこお討とゝ持とゝ書

- 一 前めゝゝ考の中執事あまけ利お有人
- 一 考とゝら誓の圖後附もまじし人合ゝ 知る
- 一 或況ふゝゝけ若中考は古まじし源平考之源平考を  
け誓もゝゝ白旗赤旗とたて源氏平氏軍の雌雄改定  
する考の考も物も小寛永三深の誓釣もつゝてまじし  
考道とて考とゝ 比かゝ泰平の代は源平赤白乃  
旗はゝゝゝ軍と満あまは務もつゝ負もつゝ聞もつゝ  
かゝもて白旗と花赤旗とゝらに今も若中考り



香車

月方へ中人月こころも日こころ月方三つて後花乃も是頃こつ  
む二程の儀終る即香乃時ハ香車を人よと入り  
香六包よりかませり始む一包を常小けとちら  
かいけりあつたのこころあつたまらう

一 團花月試の法事と能うて免へり符入る

一 此香ハ息軍の法ありひ有ていとむつり香浴り其  
功若く事合て義定まらぬと小ハ利まらぬハ福  
さうハ息こつ二人さうハ息こつ二人さうハ息こつ二人さう  
たぐたりる代しと故ハ花方の人我菴香を聞そり他の

月ノ香とて月方の人我月の香ハ他のむノ香とて  
まかおきあるえとさへりハ皆代とて軍と計り是  
息の門跡ありハは支損一人の事ハ軍こつ二人の  
二つ二人以下あり時ハ軍こつ二人の事ハ軍こつ二人の  
め一と老ことも二とも聞遠らるハ月とてたつらより  
還つらけれを軍成ゆりと入り又月方の人月二成  
月ノ二成とて遠たつら人も花方あるて又軍をゆり  
とと入り今古の香ハ息軍まらぬこつて是花成  
弁まて誤りまらぬ中少くも今ハ降付はさうあつ  
一 世小け香小返として密一程こつて是法有也葉小密

故入道が〜て安ん〜とけ考ふから〜何れも入と  
 ずか〜道が〜ハ月毫の貴院〜と〜詮ある小  
 似〜古法〜も有るの二達あり予道ある〜より  
 他花の落月のあな〜と〜と〜とや  
 風雅〜と〜と〜と

一 記録園の〜と〜を後〜と〜常成〜と〜考成記  
 尚〜札張出〜白ぬ月ノニ名花ノ一ある〜み〜  
 未付〜考成〜と考考人合て〜と〜考考に兵隊討園遠  
 たりに〜と付〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 何れか〜と下〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 るとかき〜と方の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

打ちまじ

每月  
 香記  
 録之  
 園

|       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 花月香之記 | 花方  | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 |
| 浦和    | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 |
| 花方    | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 |
| 月方    | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 |
| 月日    | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 | 花二二 | 花二一 |

源氏香 第九

一 香の種二三四の試を〜符か〜 試せらば 各宗の試

弁の香は景一曲を 又香の宗五十二年の事

一 香の種と切つて〜合サの色印色〜入室

一 雄作香印色試む〜まま色で〜能くほせて

内文色試みて始〜まは印色小あま〜 色香の〜は先と

一 同作の種う〜終〜八放思思〜 〜は先と

〜して〜向の香〜 〜は先と

小あ〜れ〜宣輝〜 〜は先と

の目香七のあめ一様又おの香如時八 〜は先と

花教里〜又か種とも少列〜の香と〜 〜は先と

第あ〜 〜は先と

〜 〜は先と

のあ〜 〜は先と

〜 〜は先と

一 香の種〜 〜は先と

〜 〜は先と

〜 〜は先と

〜 〜は先と

〜 〜は先と



ぬらふことしあふよふと下と出しし能くして其の意の  
 つい圖として彼物物の歌意ふかふ実証道行と云へ

連理香 第十

一 十百存よこころの連理成ありうまことあつえをこの程  
 よしてけ道の秘蔵す一の傳文となり故にけ一考の半條  
 札筒抄江子原香を記録 吟かこころに証録ふ又抄中子成いま  
 是は吟は傳有ト云 一む古人かこころのこころに程成りまの別ふこと  
 一筆とさしとこもけ道とありしおの志とけくを程  
 の權文解よあらしう香半言よはまの世々其條のく有て燒合年  
 め傳文して秘蔵しを撰てふなりうのてをさうらふや燒合とまはれ  
 似るる半の似たれともふなりといふ大キニ別なり

連理香之記

香組  
 十ニ二

各条

二四六二二  
 三四六二二  
 二六三二二  
 二四二二二

日

二四六二二  
 三四六二二

四雙反

日

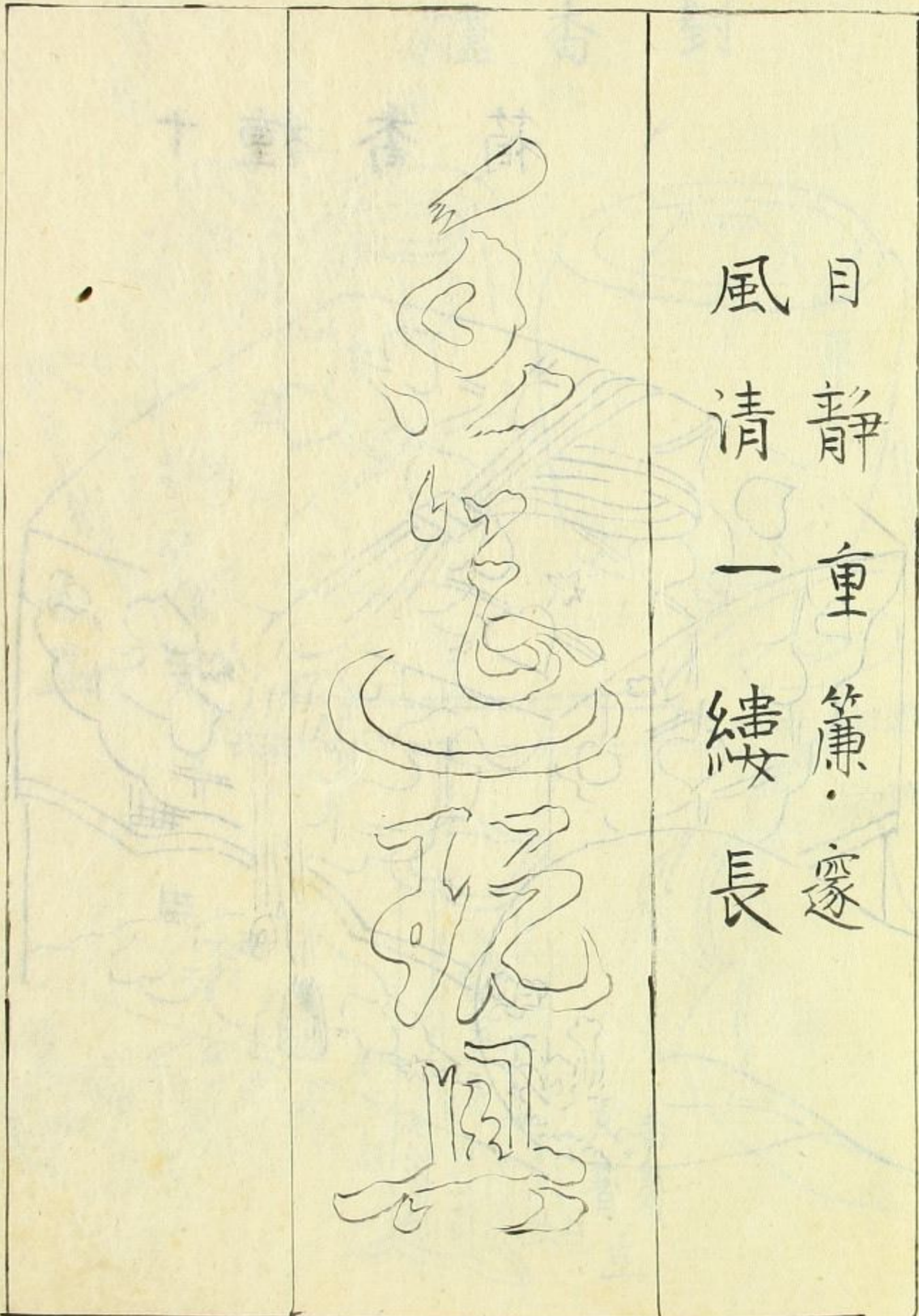
二四六二二  
 三四六二二

梳月日

|     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 日   | 二四六二二 | 三四六二二 |
| 日   | 二四六二二 | 三四六二二 |
| 梳月日 | 二四六二二 | 三四六二二 |

目靜  
重簾  
邃  
風清  
一縷  
長

道  
道  
玩  
風

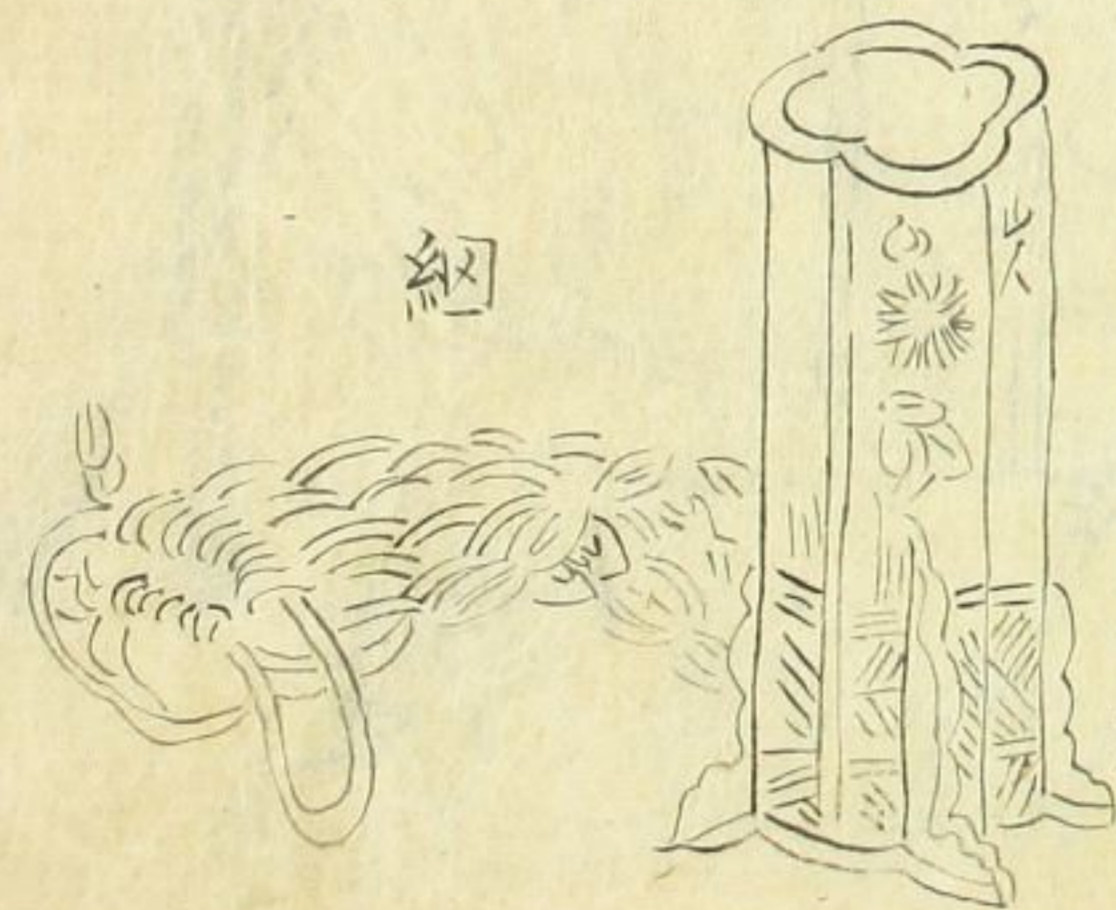




對香爐



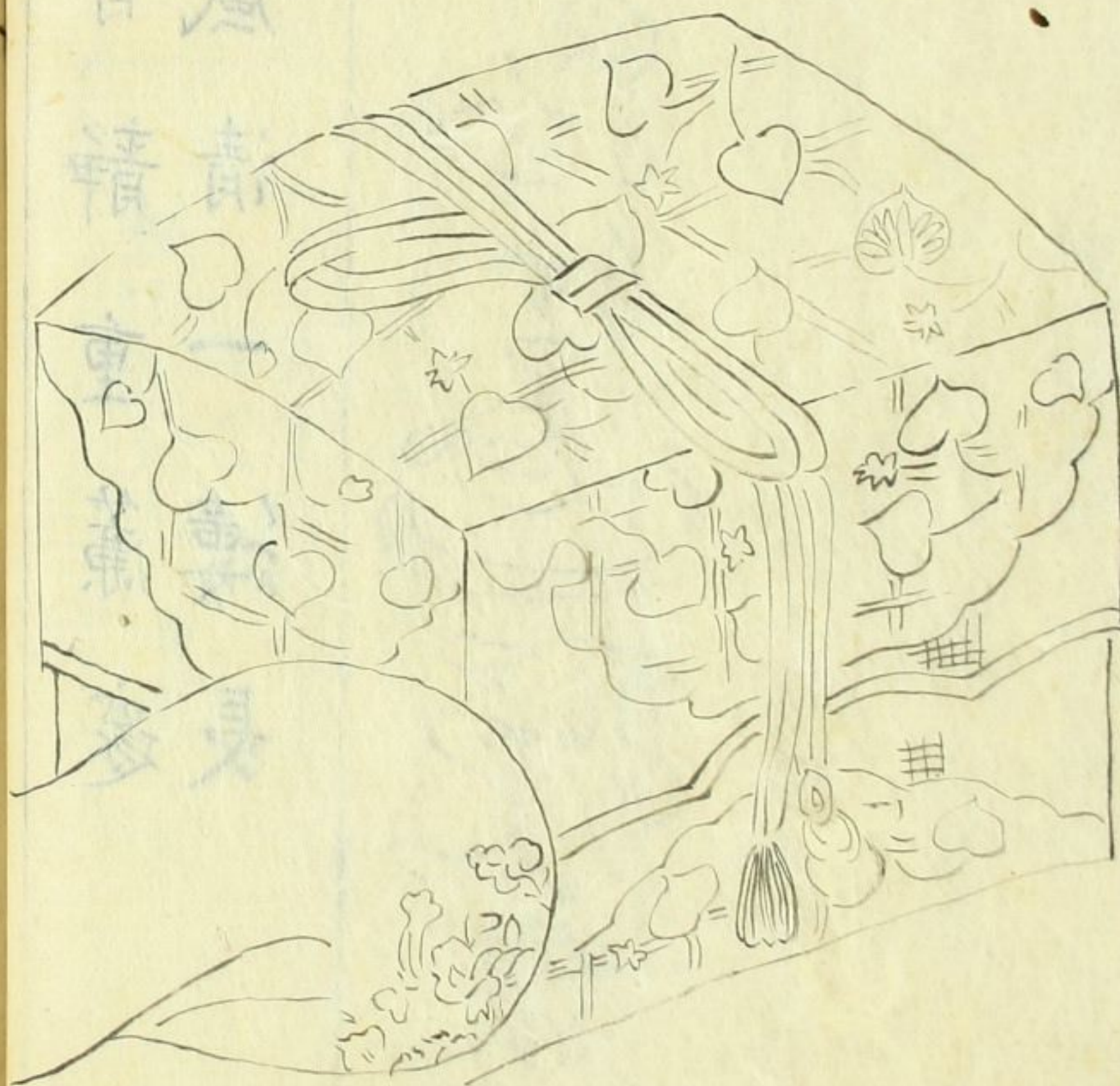
香盤



網

香箸立  
火箸

十種香箱



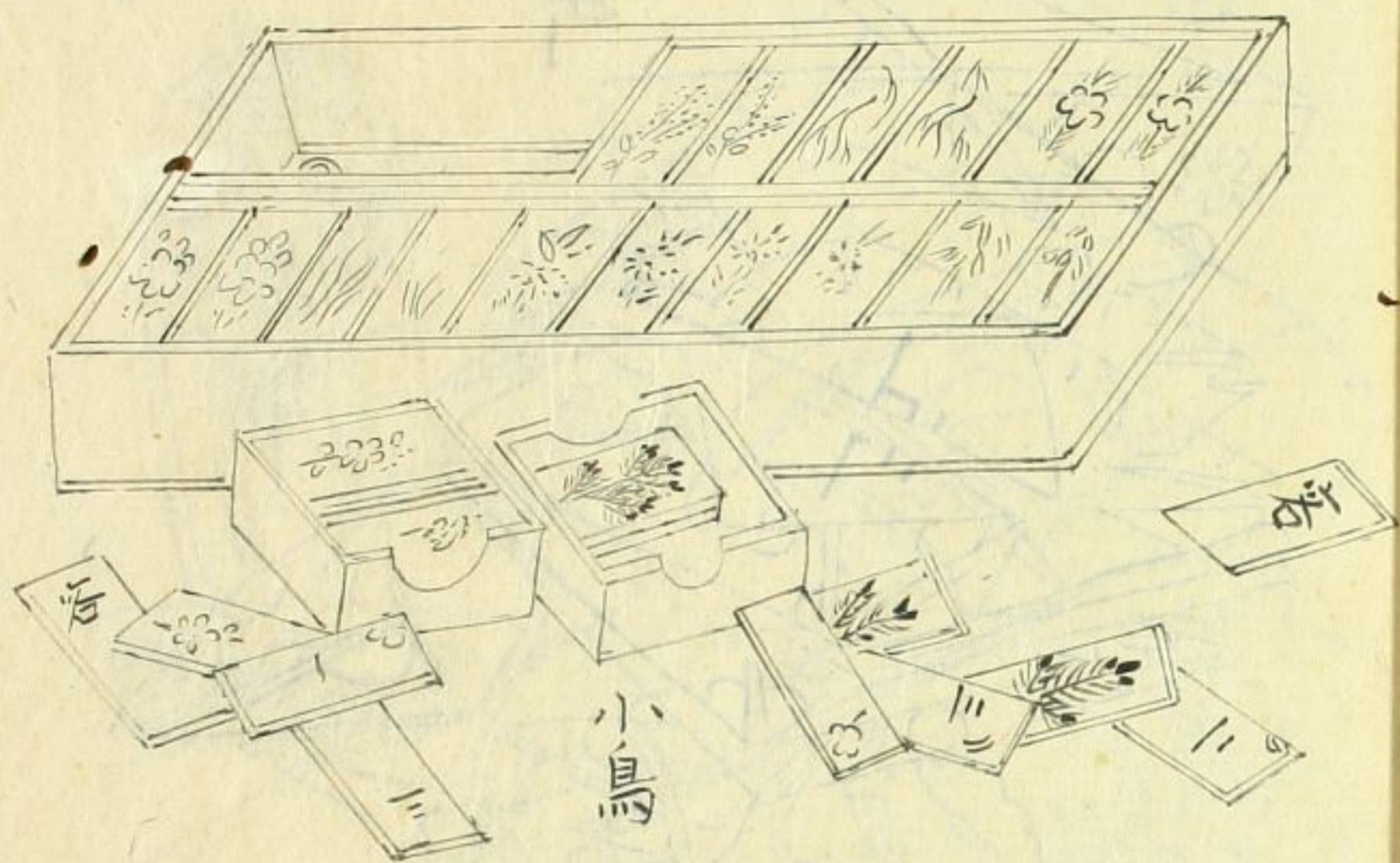
日風

精齋

寶齋

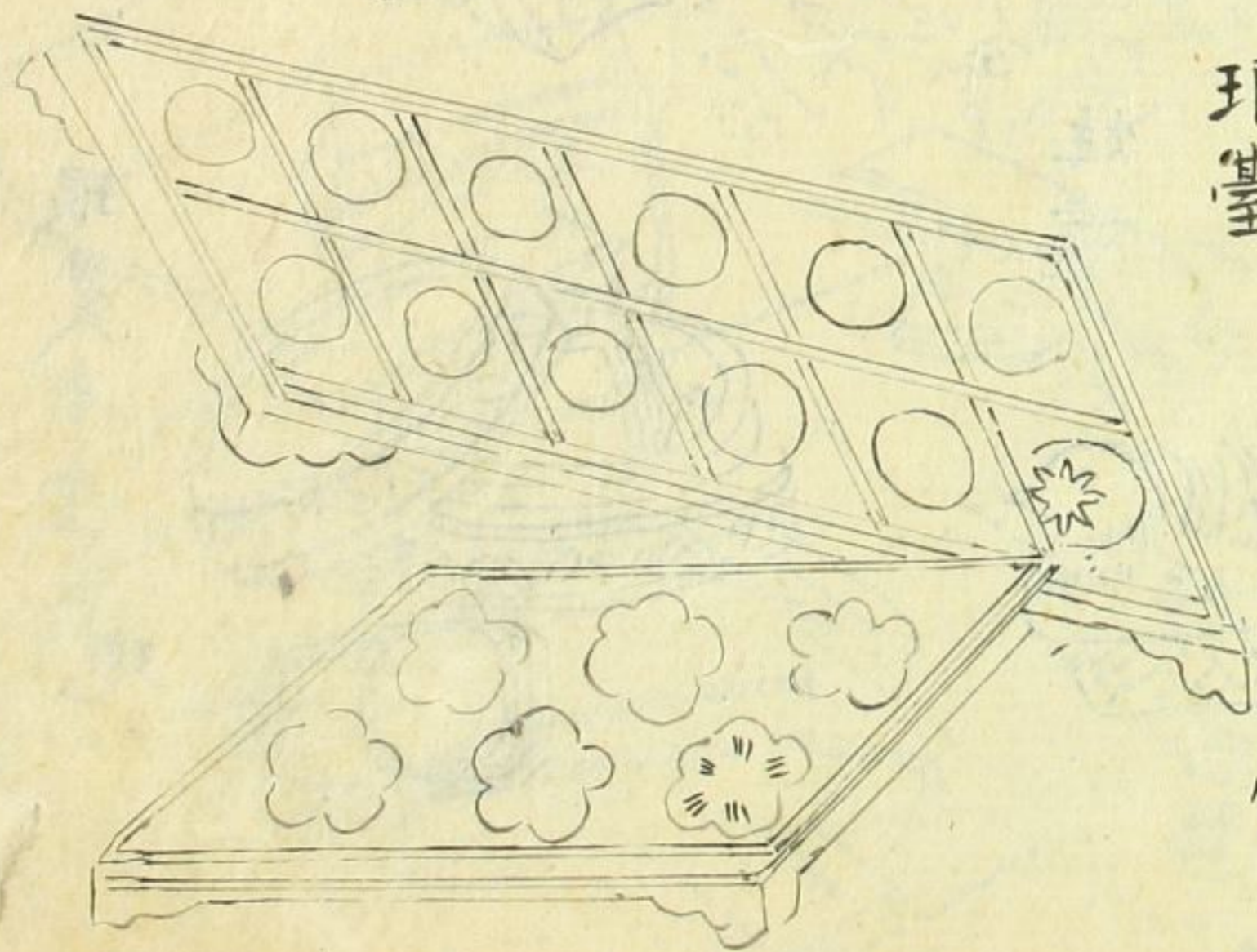
多良

符箱



小鳥

珞臺



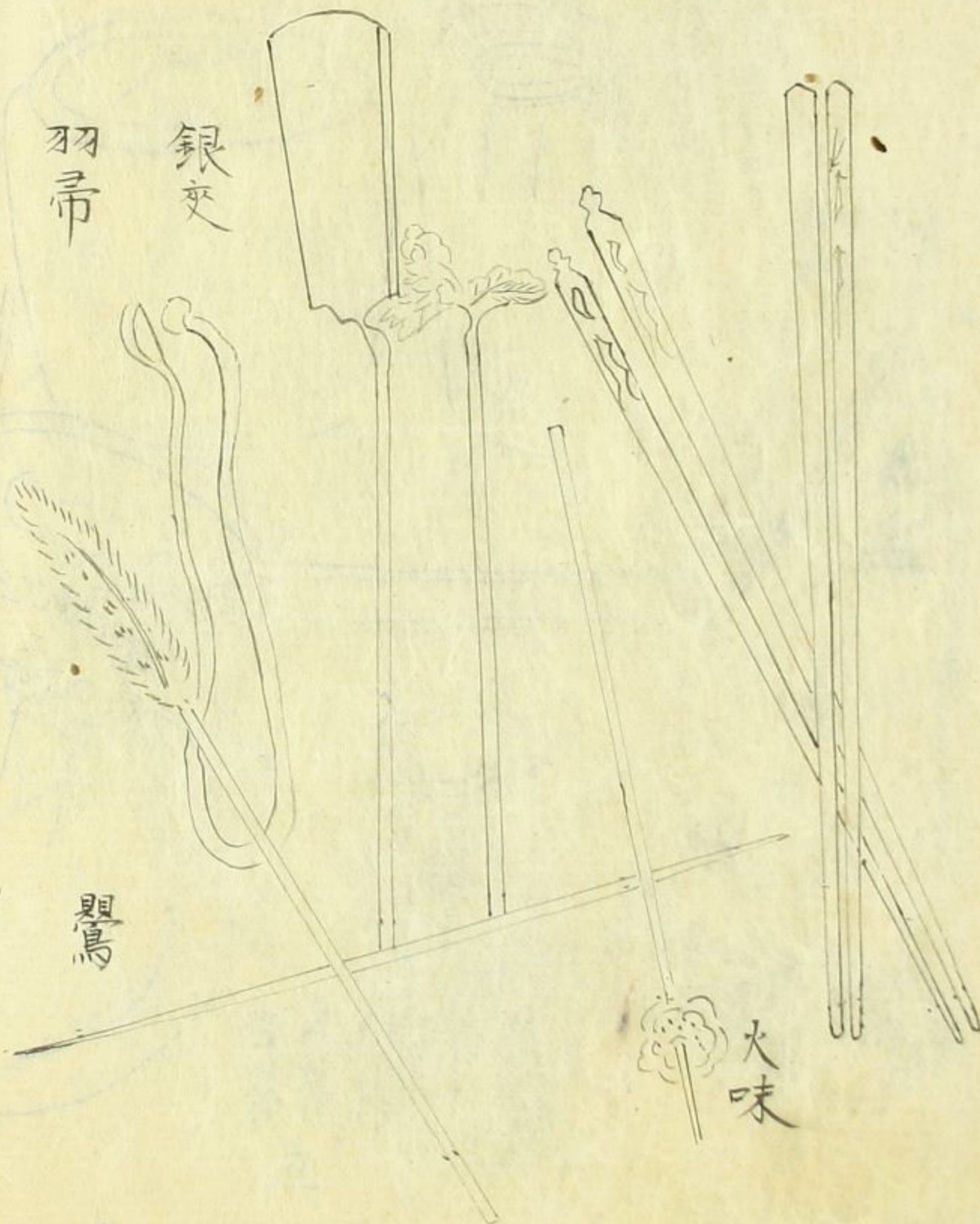
試珞臺

香箸

火箸

香匙

灰押



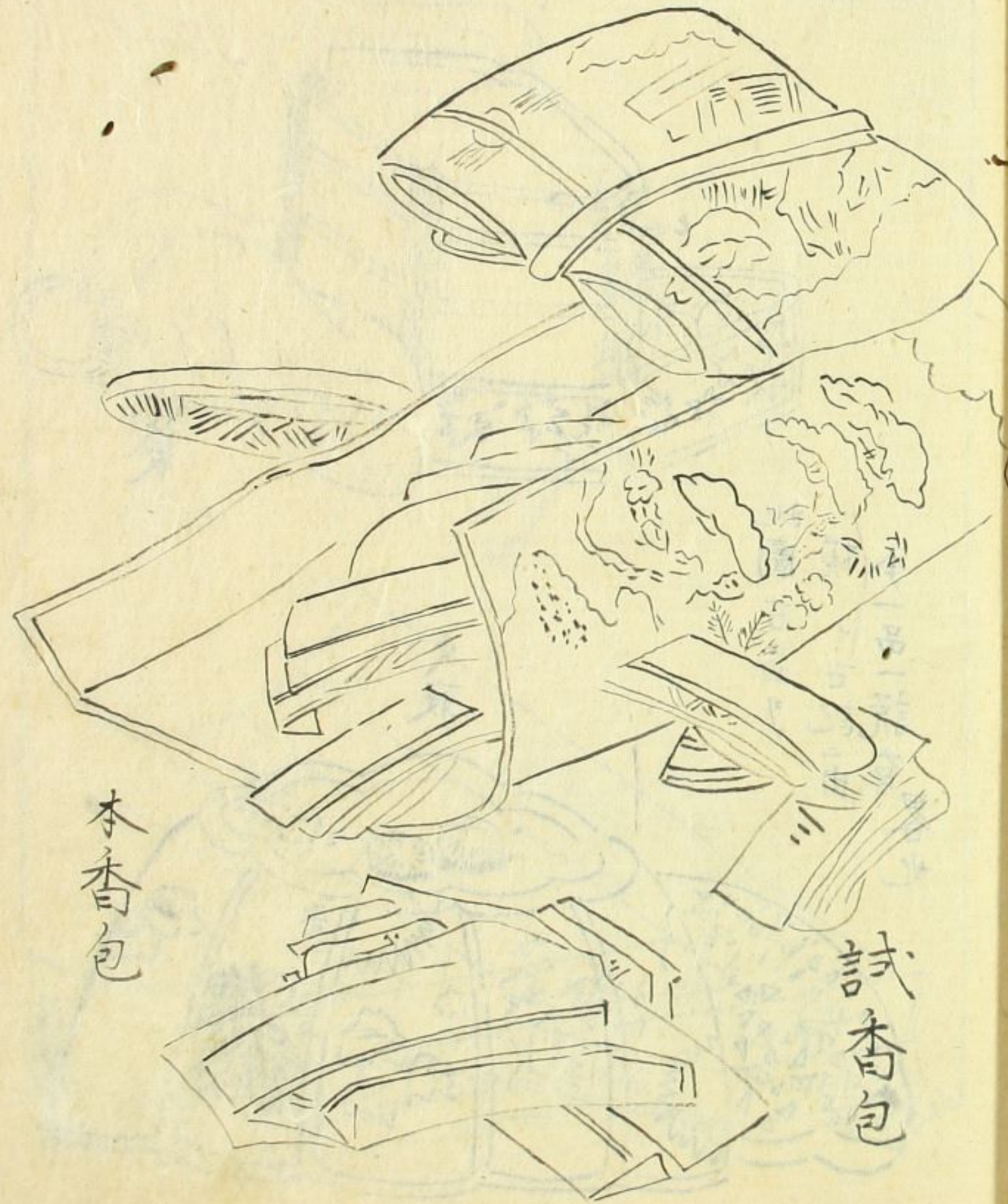
羽帚

銀交

鬘

火味

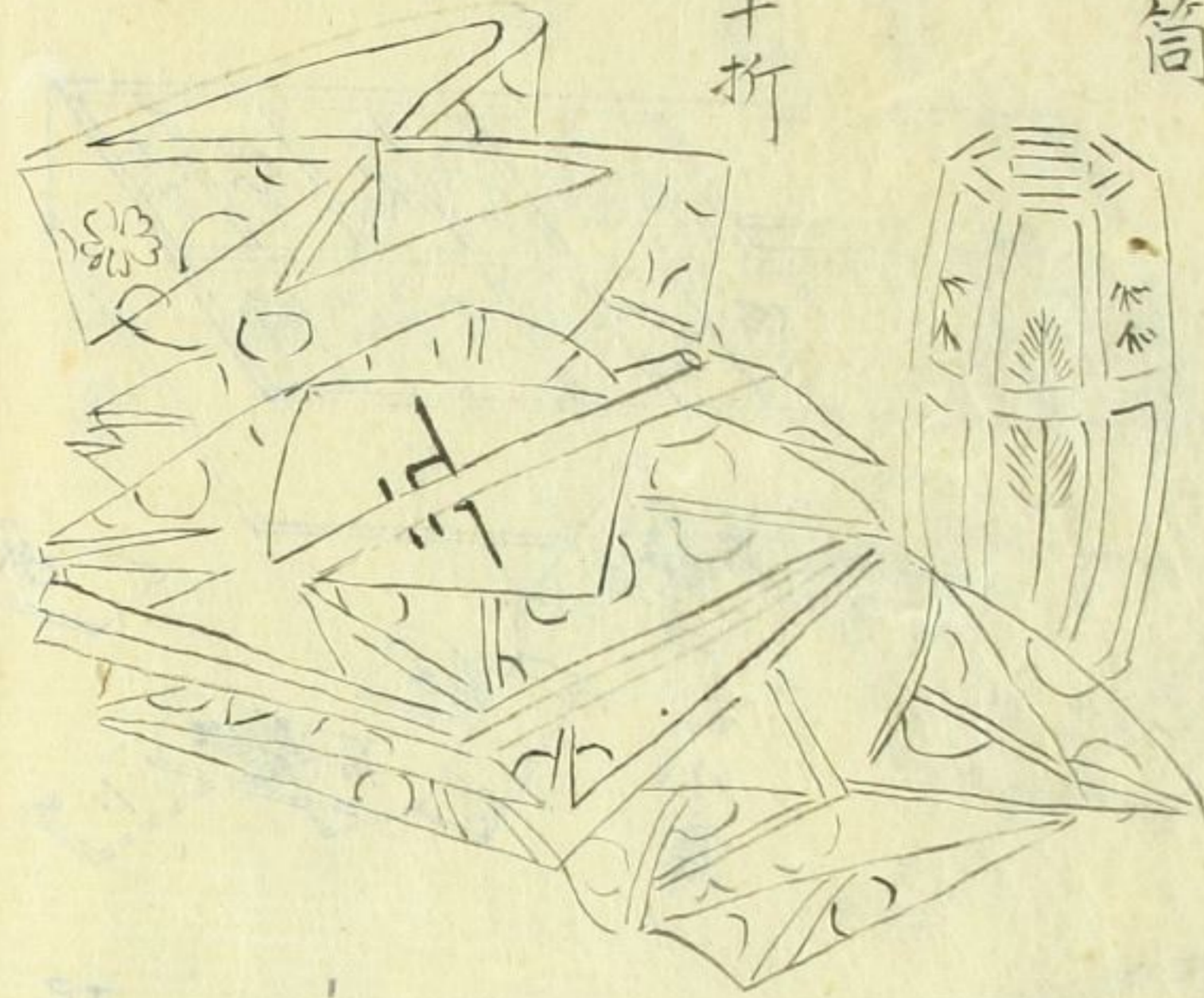
香外包



木香包

試香包

折居十折

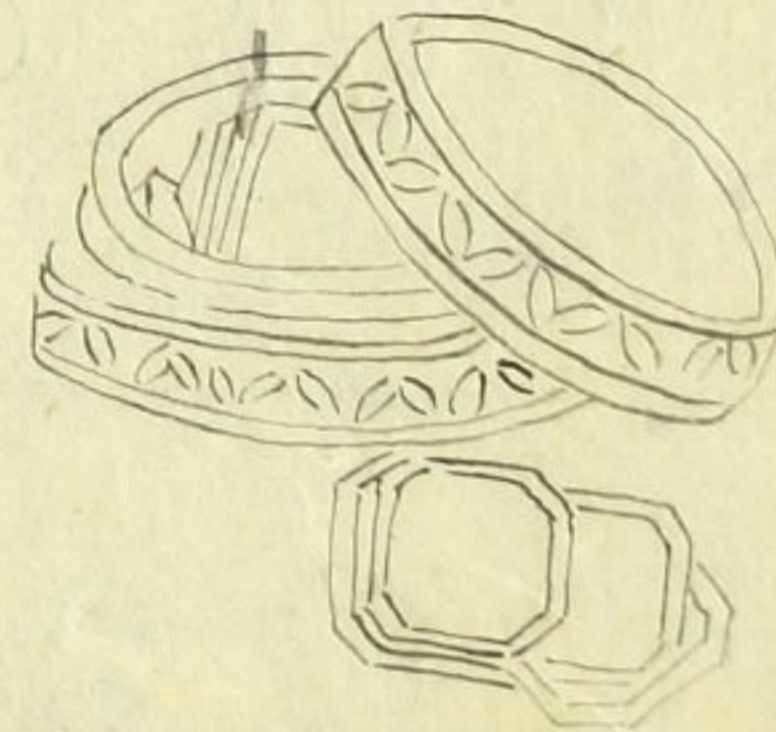


符筒

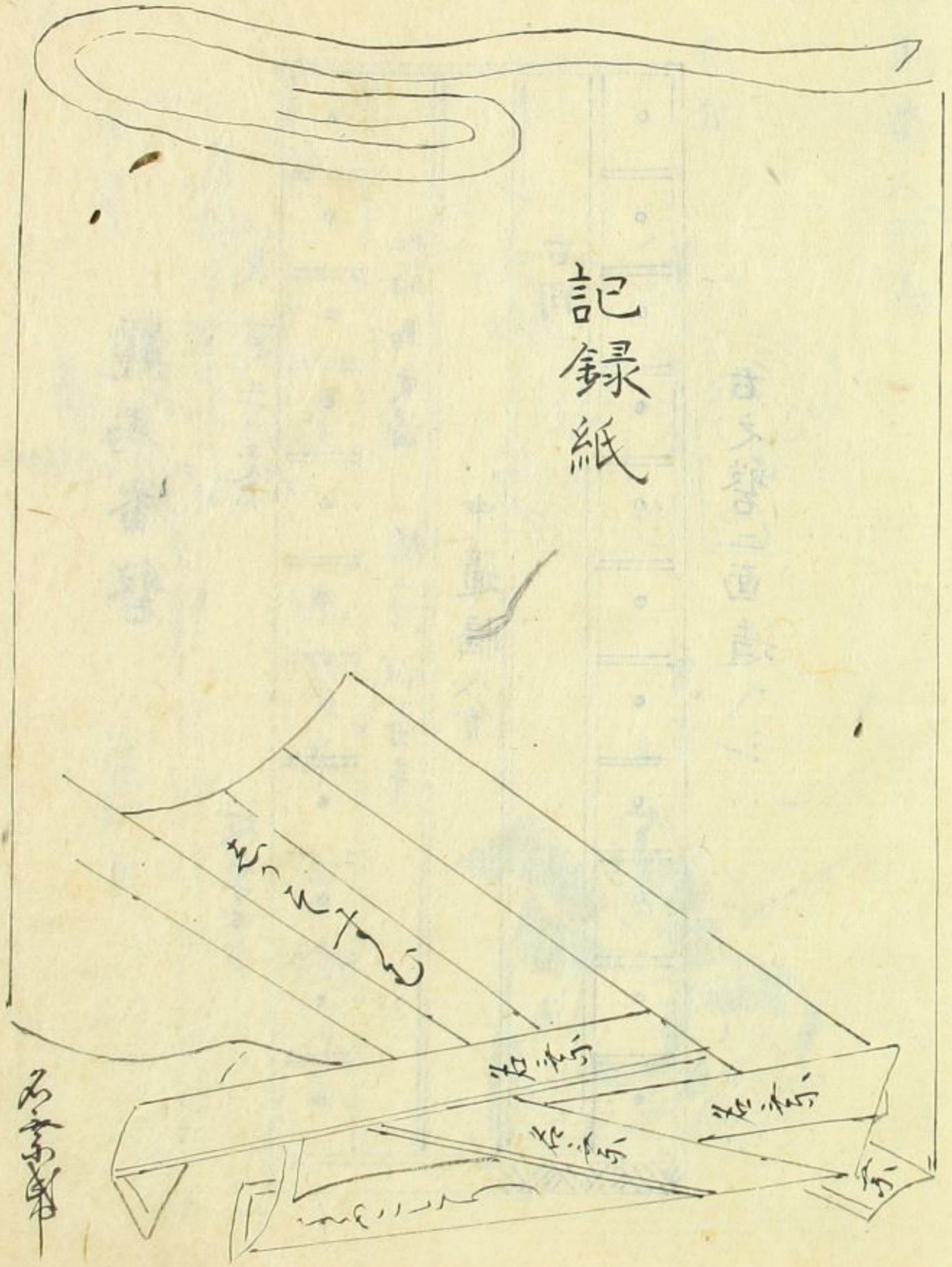
炷爐入



琅父



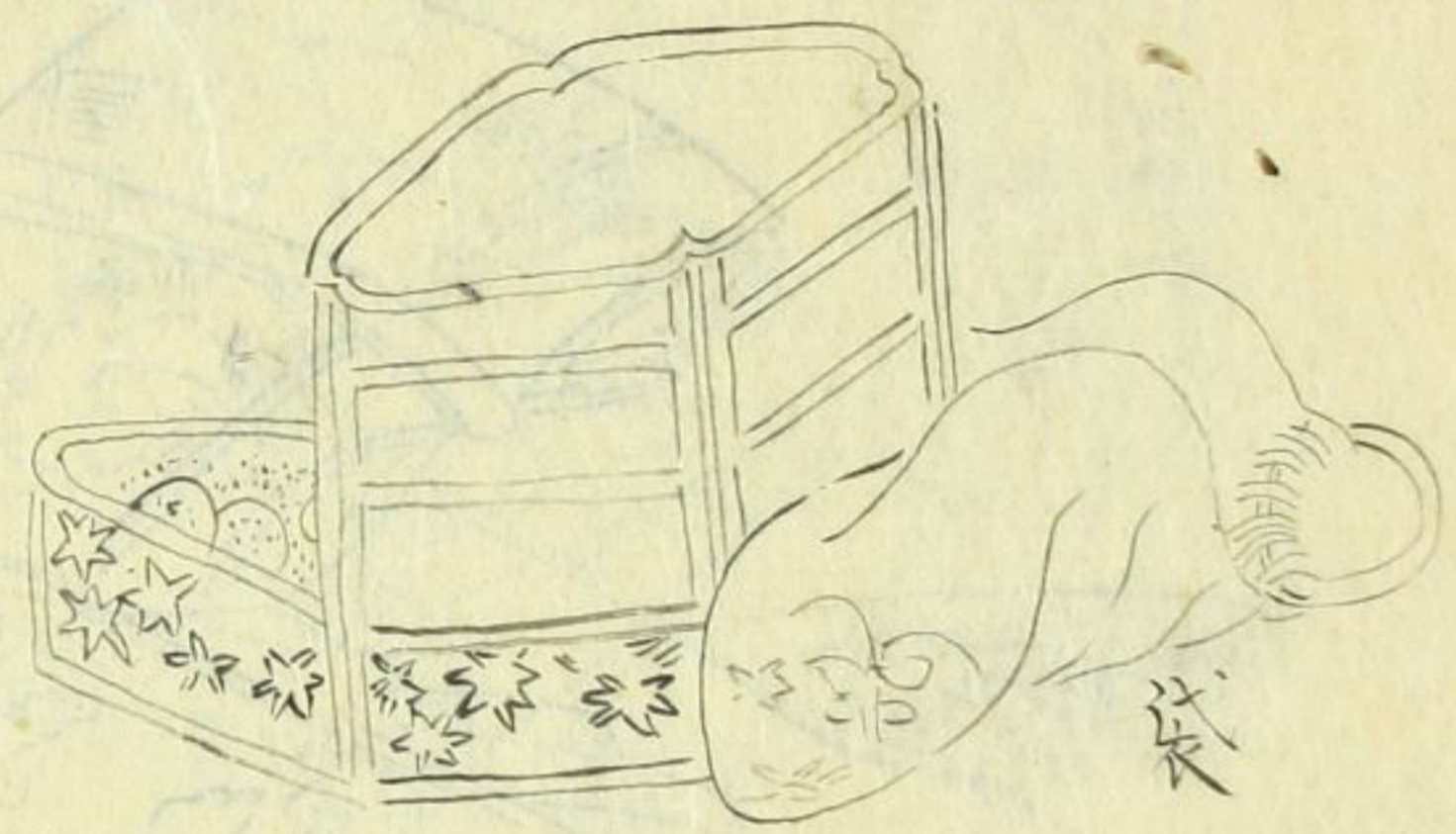
現八



古入器二面

香小豆

重香箱



此圖古益リ  
模古記ニ出  
今一品一説有  
畧也

火取



競馬香人形馬

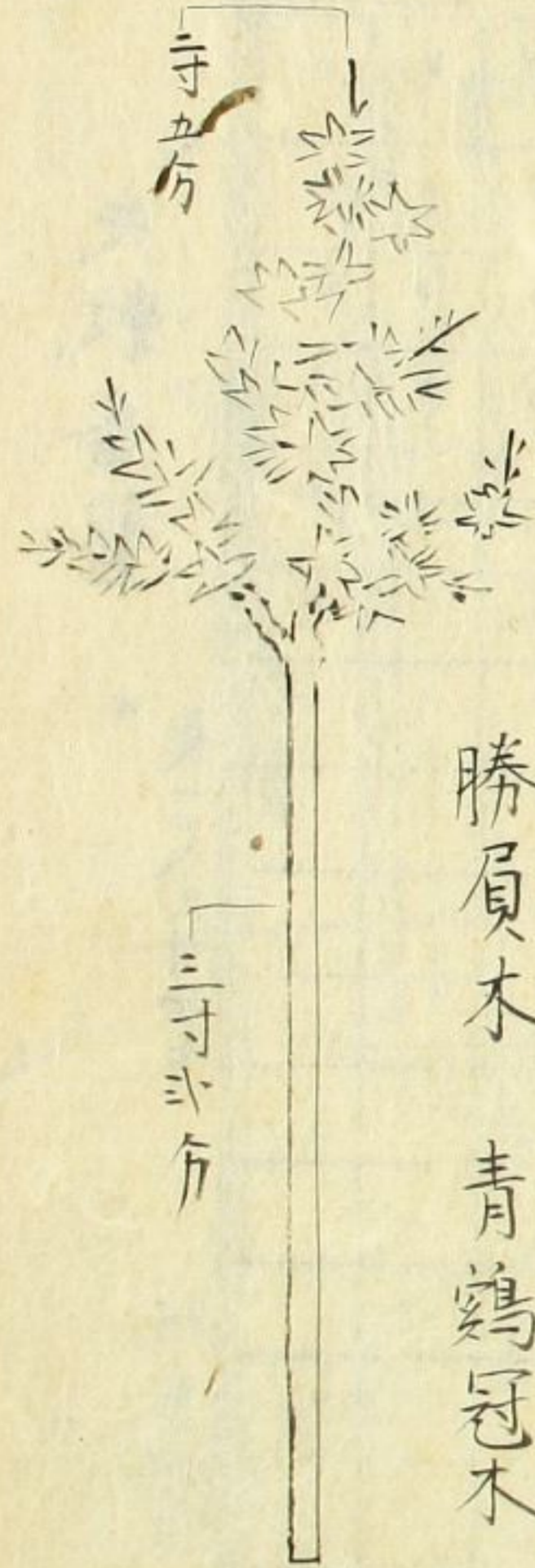
赤方



黒方



勝負木 青鷄冠木



寺方

三寸五分

競馬香磐

長一尺二寸二分

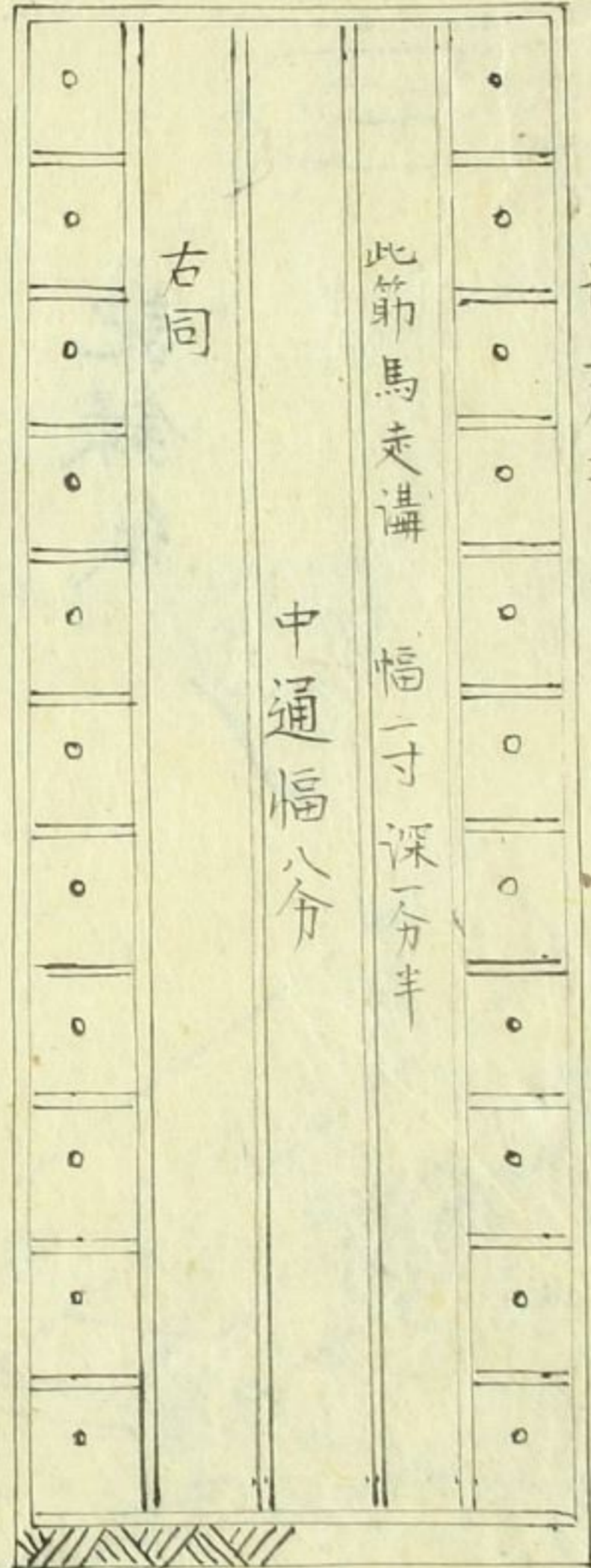
板厚四分

此節馬走溝

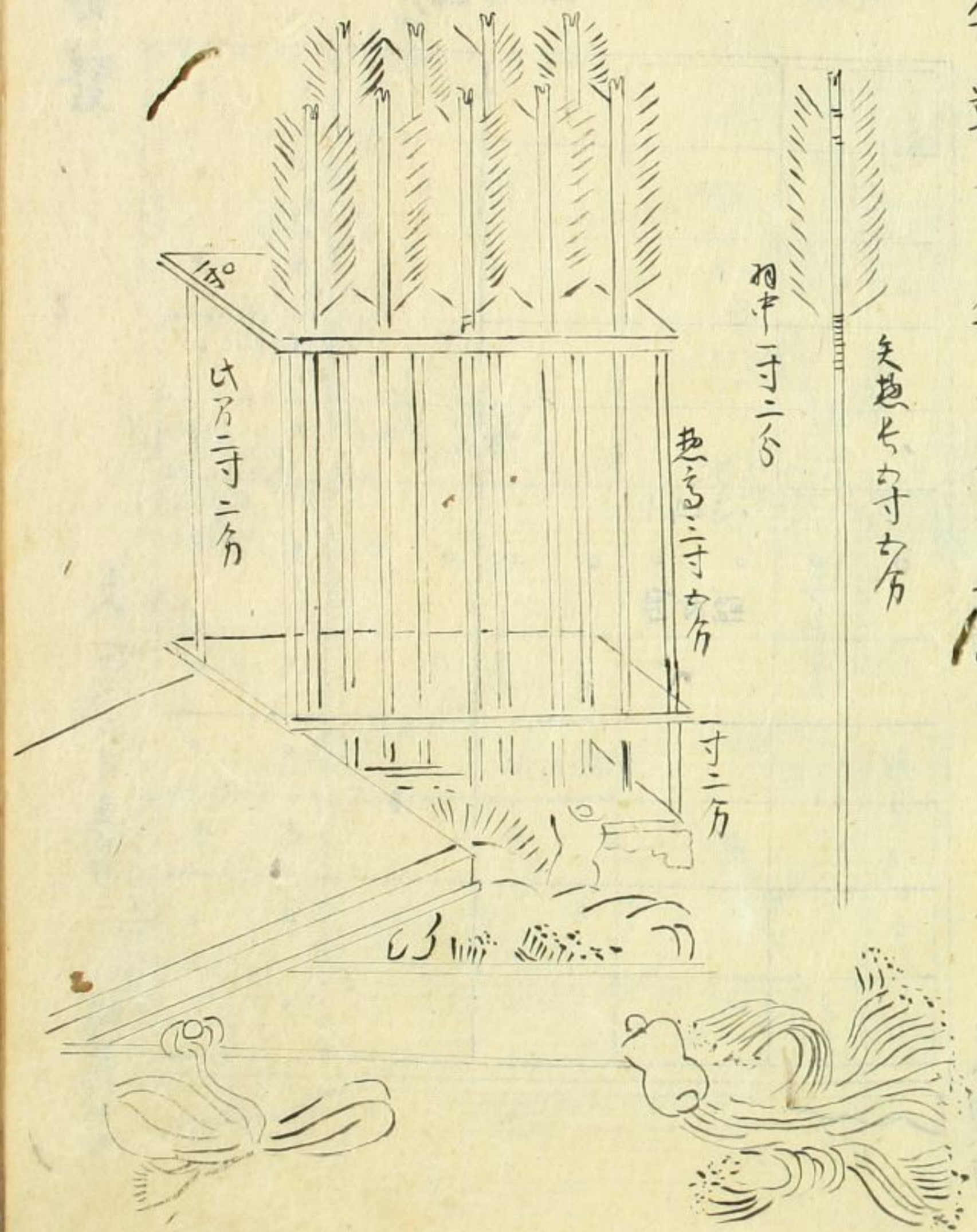
幅二寸深一分半

中通幅八分

右同



右之磐二面造ハシ



箭數香

箭十本并

矢臺

金麾十

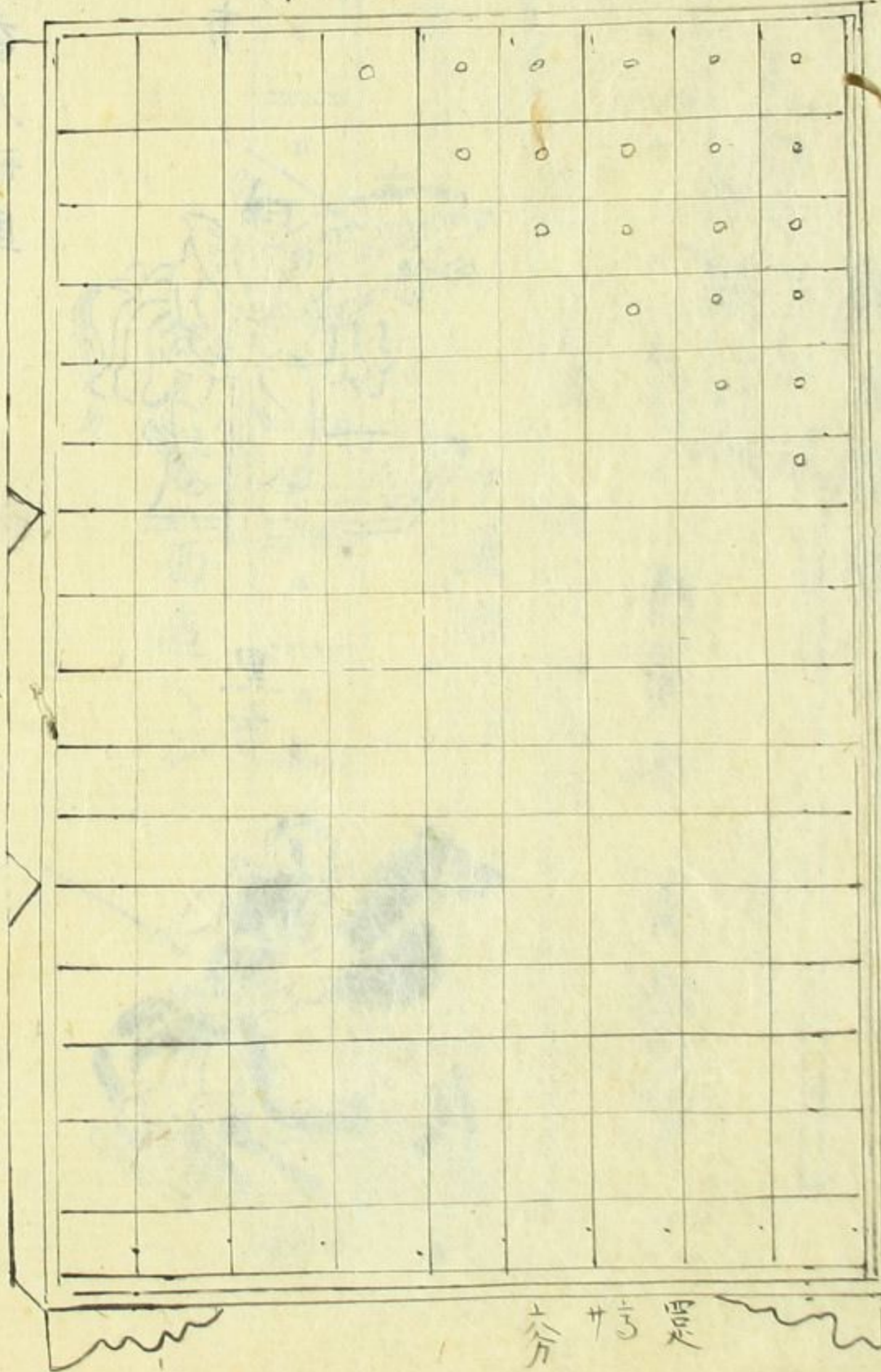
銀麾十

六万金杉書

五万銀粉書

五万矢筒書

一尺五寸



矢數香盤

長一尺六寸四分

板厚四分

六万矢筒書

名所香磬

長一尺二寸五分

板厚四分

一十寸

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |
|   |   |   |   |   | ○ | ○ |

令挿場二寸

足高六分

名所香 花七寸

芳野方 櫻五本



三寸三分

地長六寸五分

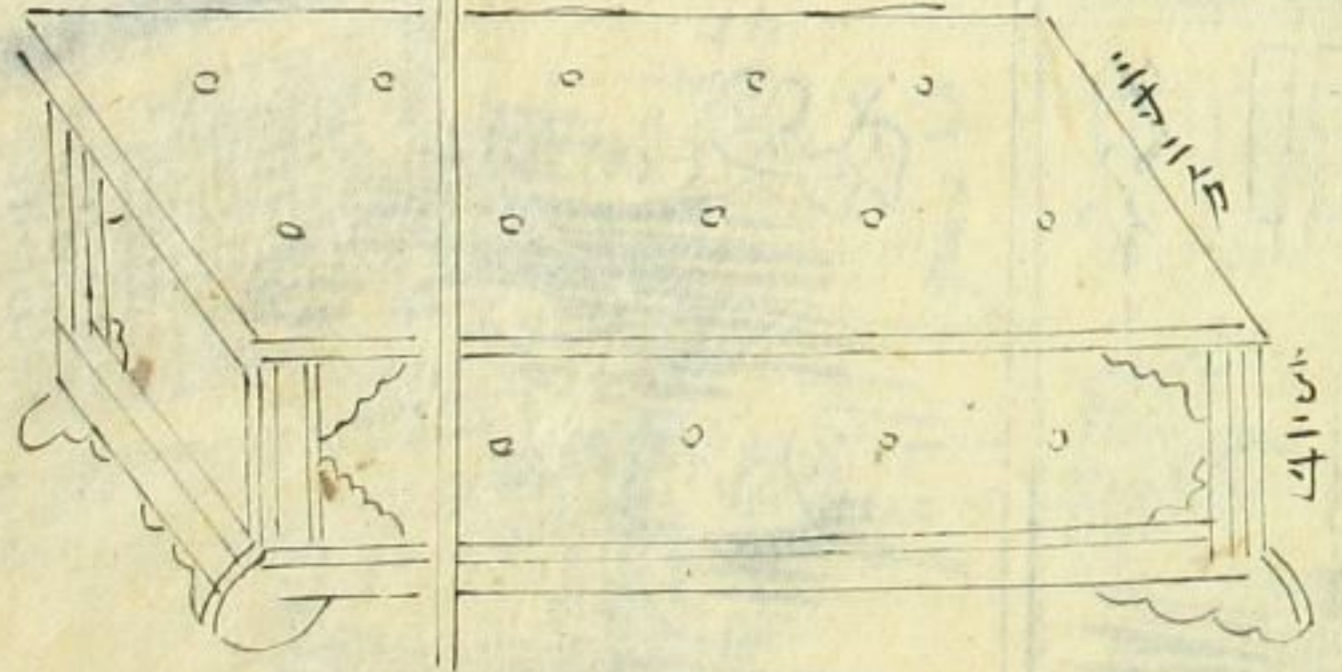
龍田方 七寸五分


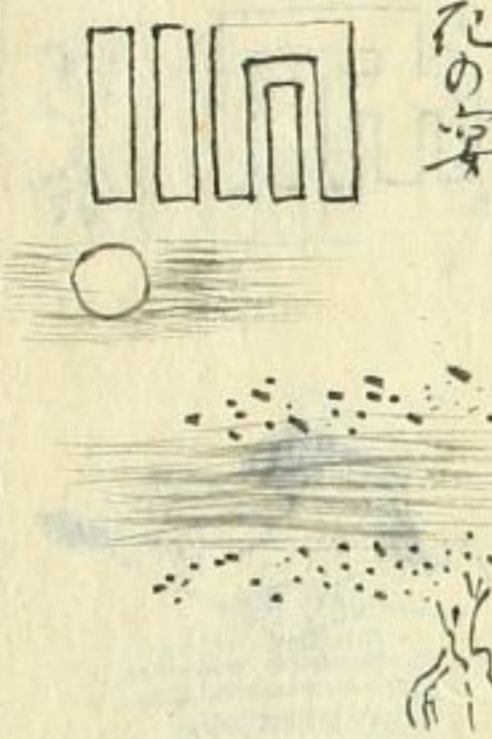
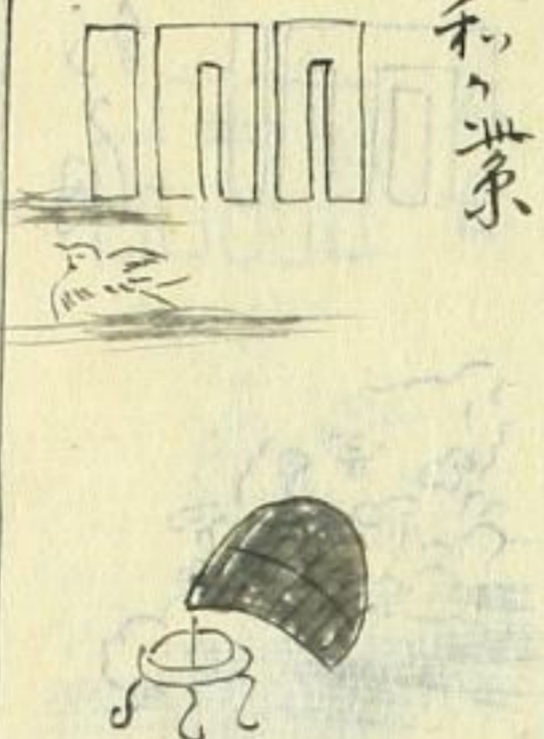

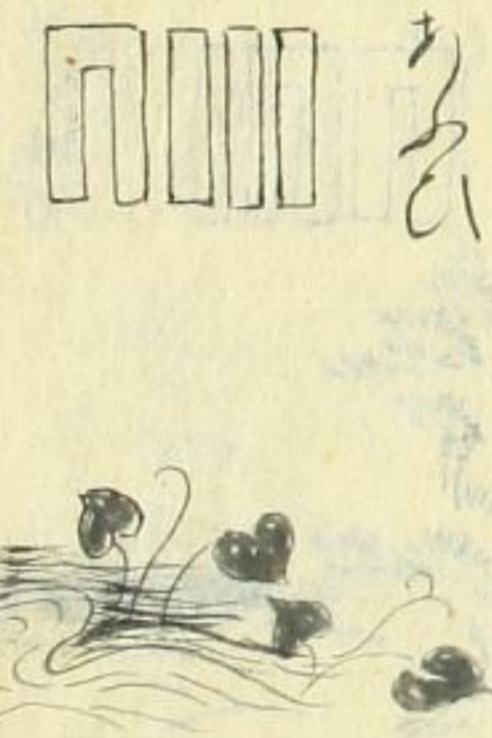






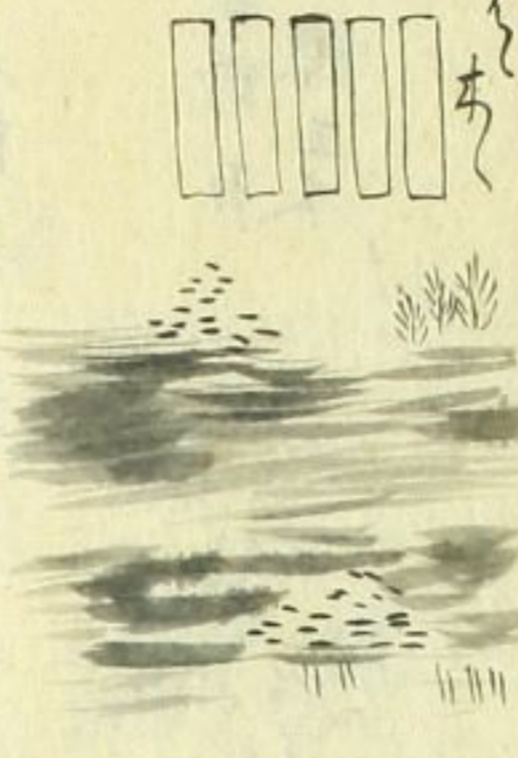




水竹九分

三寸四分









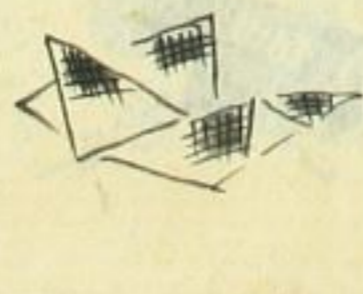
三寸二分

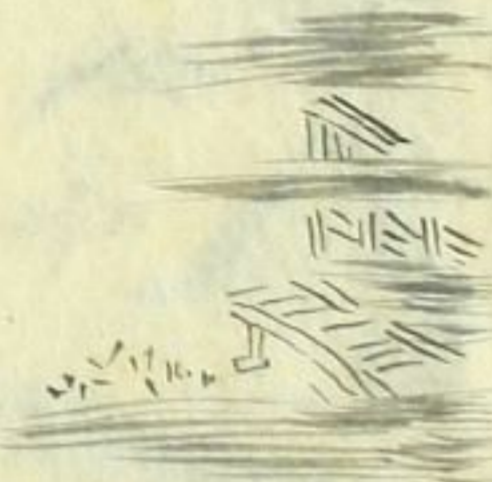







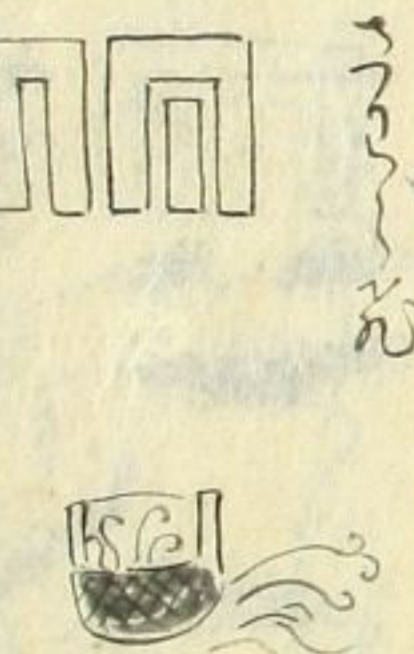





|  |   |  |
|--|---|--|
|  <p>花の里</p>   |  <p>花の里</p>   |  <p>和の景</p>   |
|  <p>花の里</p>  |  <p>花の里</p>  |  <p>未だむ花</p> |
|  <p>花の里</p> |  <p>花の里</p> |  <p>花の里</p> |

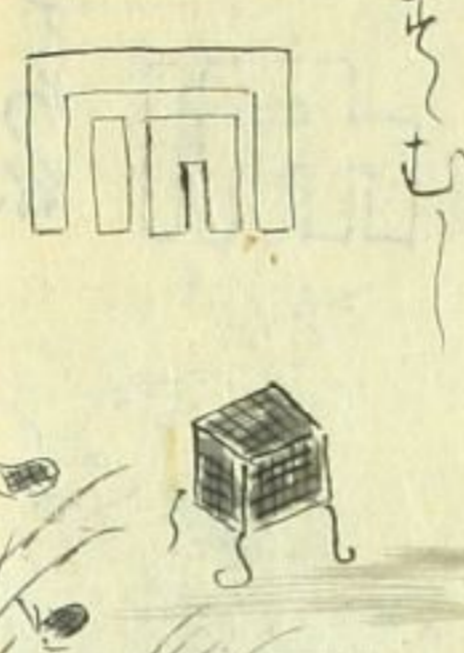
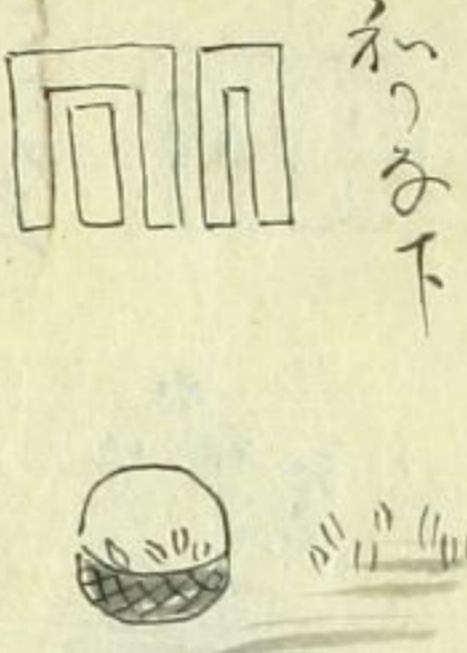




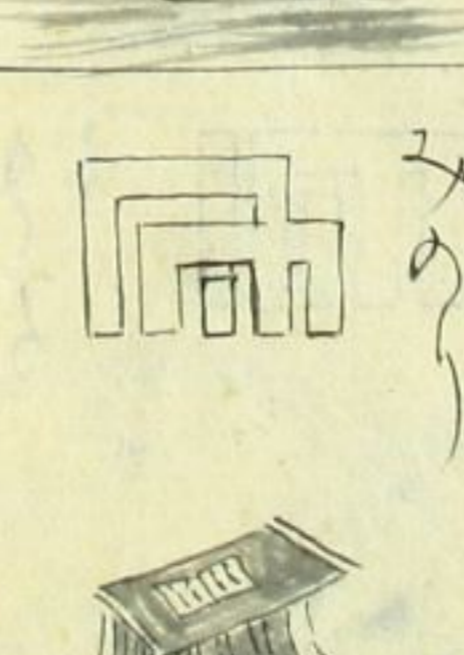

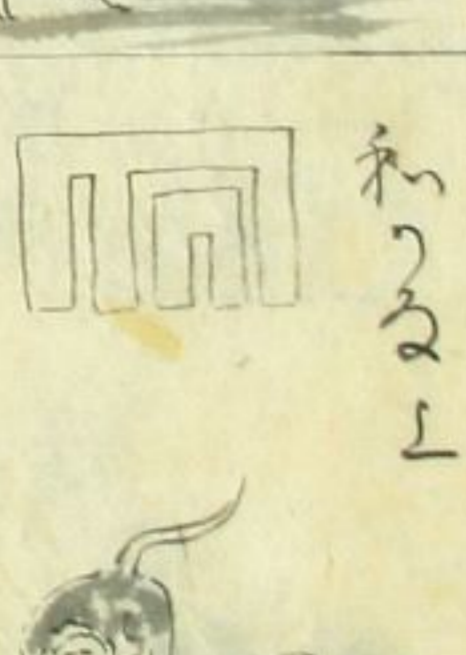
|  |  |
|--|--|
|  <p>花の里</p>   | <p>源氏香之圖</p>   |
|  <p>花の里</p>  |  <p>桐</p>  |
|  <p>花の里</p> |  <p>桐</p> |



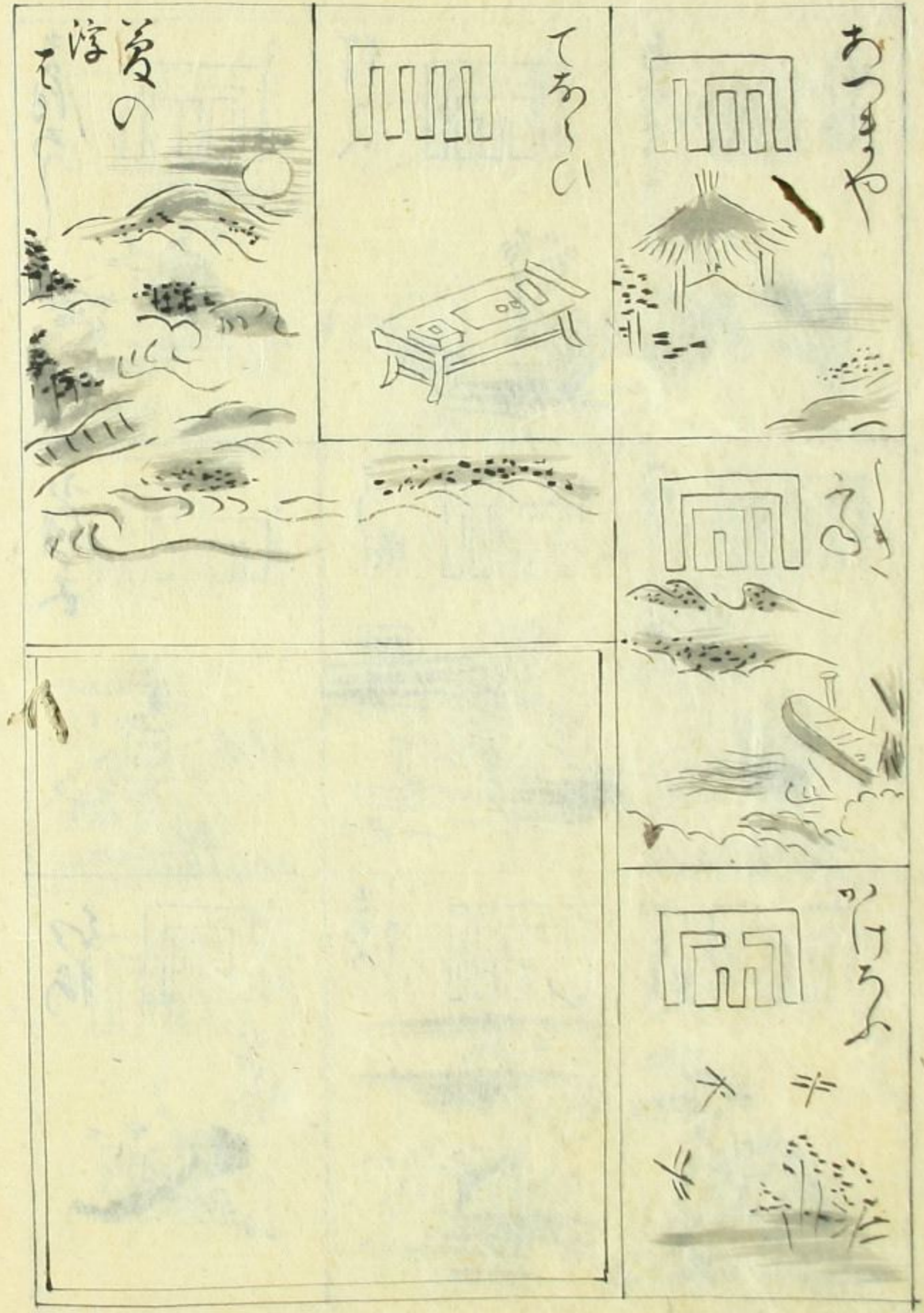
|  |  |  |
|--|--|--|
|  <p>みやま</p>   |  <p>こころ</p>   |  <p>こころ</p>   |
|  <p>あそび</p> |  <p>かみ</p> |  <p>こころ</p> |
|  <p>松</p>   |  <p>あそび</p> |  <p>あそび</p> |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  <p>あそび</p>   |  <p>あそび</p>   |  <p>あそび</p>   |
|  <p>あそび</p> |  <p>あそび</p> |  <p>あそび</p> |
|  <p>あそび</p> |  <p>あそび</p> |  <p>あそび</p> |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  <p>あ</p>   |  <p>い</p>   |  <p>う</p>   |
|  <p>え</p>  |  <p>お</p>  |  <p>か</p>  |
|  <p>き</p> |  <p>く</p> |  <p>こ</p> |

|  |  |   |
|--|--|---|
|  <p>け</p>   |  <p>こ</p>   |  <p>か<br/>梅枝</p> |
|  <p>さ</p>  |  <p>し</p>  |  <p>す</p>       |
|  <p>そ</p> |  <p>た</p> |  <p>ち</p>      |

一 十種香箱式造り小様々此種皆へ一或二を或六を至  
 尾澤和代前経山源氏花名方箋のありて  
 書又古代のち和角赤なと用るとや一今物八分銀  
 赤銅四分一赤鍮筋の細と志くぬ代八澤和の織物も  
 のちらぬふりも成てよ一上十始の香包ト一  
 香爐托ここの筒打居るや小なるを入る一香爐一  
 對香包を稱令調子深付等出やありふつといは  
 よりといふ一まじりて是ら成秘記す香爐とありて  
 常よけ蓋袋紙月以へ一  
 一 香盤澤木托前候或は香貝なる木の紙好小とてふとて



とも堆印沅全形の紙は古くして考今下は用ひま  
はしあ考益の紙用ひま又用ひ

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

形は六角まで角切して代用也今下物中

と縁ありて用ひても縁ありて用ひても縁ありて用ひても

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入

切原図をいれよ

一 考英大無立今下物中はりわあと古く漢和丸  
と有陶著とふ紙は細も代紙小と入





漢字も心合根粉朱漆半分三分入る一葉の如し  
一同葉拾半羽の白の深羽を染り交つてつらつら  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の

一 同金根の麻毛の金糸銀糸光り成用内拓印の亂單  
ハ漆の如し一又唐末の如しハ漆の如し

一 石取の葉の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の

一 同葉の如しハ漆の如しハ漆の如しハ漆の如し  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の

一 源氏秀の圓一冊折ての種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の  
よよ一葉の唐末の種言ふよよ角入の葉の種言ふよよ角入の葉の

の聖朝一いつてあそし中興せよとて  
維新の事考なりのは振ホハ志也信宗過の古は  
一と世の〜成ま〜あ〜たは〜して  
世に流布〜ぬ文〜私の事作はあ〜ひけ弁競り矢  
救名亦乃聖人形矣毫とら考色考こと〜を  
一の聖の付〜約〜あり是の語是〜と新〜  
〜〜〜言流ぶ〜右道具の中考毫志也柳考割  
守硯考屏風考の諸不定まるは有とたり事多端  
るまは拙めは〜あ〜い〜あ〜い今十程考〜用要具  
一通とる〜侍ら〜た〜人〜あ〜い〜と公〜

有てい〜道〜ら〜ら〜ら〜玉の境成るて  
拙〜〜人〜の〜〜とてあそ〜ん〜の考  
〜〜も〜あ〜〜た〜の〜

宣善庵愚漢子述





浮水はききり歌うしなまきあは  
るくもぬい堂しわもあ堂しわ  
さうとのい華つこふり光りり  
成一草庵は市中乃杜と地み枯  
まきののめいひく付子休き蓮  
絶と母とまひ給ぬ人袖も袂も  
公堂のい人つと節と首とぬりて  
真成をうしと懸しつて稀

たしき者首今下能白ひとさしりた  
らしつこころと打ついせき絶すい  
とまむとの危くしてるく奥有  
トとしつひらたん志めせつ称え  
十にこの雨少女をみお月もけて  
あましくふ残くは香道成能く  
うらもの北葉列伴紫古おく  
いね楓判つ後する今下め切進

は〜る丸〜車〜て〜の句ひで定  
めつれし神〜通〜て天よらじ  
醜成状芳戸乃乃るの園梨儀有  
ふの年以久〜恨もめた〜な  
〜探ひ打拵〜袴をら  
海の中乃乃る久〜て〜と  
〜つら〜つ〜て〜の代め  
相風塵ひらの積ま〜る趣と誰

〜打拵〜〜芳〜  
の端〜と侍〜第〜  
〜な〜後〜と梅木乃  
清き〜め〜ち〜のよて  
形〜年七母下〜  
〜若草字乃若る酒〜侍に  
はけ道のる亀燈〜成〜や半  
此後讀〜と忘〜侍言

青享保十回

季秋吉旦

*[Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page]*

